

第 2 章

千葉県教育の目指す姿

(1) 「千葉県教育の戦略的なビジョン」 に込められた県民の思い

多くの県民参加によって策定された「千葉県教育の戦略的なビジョン」（教育戦略ビジョン）には、次のような思いが込められています。

「親の背中を見て子は育つ」と言いますが、まさに、大人一人一人が子どもたちの育成のために、自ら学び、襟を正し、子どもたちと接していくことが大切です。

また、子どもたちの視点に立って、子どもたちが郷土に誇りを持ち、「ちば」に生まれてよかったと思えるような教育、自ら進んで学び、自分を表現し、社会参加できるような教育、ひいては、我が国に誇りと愛着を持つとともに、外国の文化を尊重し、国際社会にはばたいていけるような教育をすすめます。

このため、基本理念は、

県民一人一人が主体となって、家庭・学校・地域が責任と信頼のもとに連携・協力し、心身ともに健康で、郷土を愛し、責任ある行動と自己表現のできる、あすを拓くちばっ子を育てていきます

となっています。

また、みんなで推進する教育ビジョンとして、県民一人一人が子どもたちの育成のために連携・協力し、大人も子どもも、教育について考え、ともに育っていくための4つの目標を

- 社会の中で個性が輝く「人間力」の醸成
- 家庭・学校・地域連携による教育力の向上
- 豊かな学びを支える教育環境の整備
- 子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育の推進

としています。

さらに、

- 社会を構成する一員としての自覚の向上
- 家庭教育力の向上
- 豊かな学びで夢を育てる学校づくり
- 自立・社会参加に向け、持てる能力を最大限に発揮して学習できる教育の推進

など18の基本テーマのもとに、「待ったなし」で取り組むべきものから、中期的、あるいは長期的展望に立って取り組むことまで、県民からの88の推進課題が出されています。

(2) 千葉県の教育を元気にする有識者会議の提言

国においては、教育基本法の改正並びに教育振興基本計画の決定、学習指導要領の改訂など、様々な教育改革が進んでいます。

また、いわゆるリーマンショックに端を発する経済活動の低迷や人口の地域格差など、子どもや教育を取り巻く社会の状況も大きく変化しています。

そこで、千葉県では、社会状況、経済状況が急激に変化する時代にあって、家庭、学校、地域、行政が一体となって千葉県の未来を担う子どもたちを育てていくため、「千葉県の教育を元気にする有識者会議」を設置し、幅広い視点から検討や協議を行っていただきました。

その提言には、知事や教育委員会のみならず、多くの県民に向けたメッセージが述べられています。

提言を貫くメッセージ ～『ふれる』、『かかわる』、そして『つながる』～

- ・ 我が国は、世界に追い付け追い越せという時代を経て、自ら創造して発展し、世界をリードしていかなければならない、非常に難しい時代を迎えています。
おおよそ四半世紀前に発足した臨時教育審議会では、21世紀に向けての教育改革の基本的考え方として、個性重視の原則を掲げました。これは、当時の時代背景のもと、脚光を浴びてまとまったものでしたが、振り返ってみると、この20年の間に、個性重視や個性尊重が重視されるあまり、周りを顧みず、お互いのかかわりや触れ合いが希薄になってきたように感じられます。
- ・ 家庭においても、家族が一つ屋根の下にいるというだけで、「一緒に楽しく暮らしているよ」と胸を張って言えるかどうか。子どもと親、つまり、基本である家庭でも、親子が目を見て会話する時間がどれだけあるでしょうか。こういう基本的な触れ合いが、子どもたちの成長にとって極めて重要なものと指摘されています。
- ・ 子どもたちの学力は、思考力・判断力・表現力に課題が指摘されています。また、多くの教員が多忙感を抱いており、その解消や安心して働ける環境づくりも課題となっています。学校教育において、健やかで知・徳・体のバランスの取れた子どもたちを育てていくためには、教員一人一人の指導力を高めていくこととともに、教員を少しでも支援する仕組みが必要です。
- ・ また、子どもは家族や友人など限られた人間関係の中だけで過ごすことが多くなり、世の中にどんな仕事があるのかも分からないし、大人とのコミュニケーションのとり方も分からないといった若者も多くなっており、社会的・職業的自立の点で、大きな課題となっています。
- ・ 一方で、「日本人の国民性第12次全国調査（統計数理研究所）」によれば、“自分の好きなことかどうかはともかく、人のためになることをしたい”人の割合は、過去最高になっています。ややもすれば、自己中心的、子ども中心型に偏りがちであった風潮が、今、日本人らしく復活しようとしている兆しも見えています。

- ・ 国境を越えて、民族を越えて、すべてを越えて人間関係こそが未来をつくります。子どもと親の触れ合い、子ども同士の触れ合い、地域での人と人との触れ合いに始まり、それが家庭と地域、家庭と学校、学校と学校、学校と地域、学校と産業などと、大きくつながっていくことが、これからの教育にとって不可欠です。
- ・ 千葉県は、自然、産業、人材、教育機関など、人づくりのための大きなポテンシャル（潜在能力）を持っています。また、成田空港や千葉港を有し、世界に開かれた地の利もあります。そして、人づくりや地域づくりに参画したいと思っているたくさんの人がいます。
- ・ 「教育立県ちば」の実現には、家庭や地域の人々をつなげるとともに、首都に隣接した地理的優位性や、人と自然や産業など千葉県の優れたポテンシャル（潜在能力）を最大限に引き出し、つなぎ合わせ、活用していくことが必要です。
- ・ そこで、「千葉県の教育を元気にする有識者会議」では、「『ふれる』、『かかわる』、そして『つながる』」をキーワードとして、今後の千葉県教育が目指すべき理念、その理念を実現するための方策や条件整備、さらに教育や人材づくりのネットワーク構築について、具体的に検討を行い、「3つのプロジェクト」として12項目の提言を行うこととしました。

(3) 10年後の子どもたち、家庭、学校、地域の姿

こうした「千葉県の教育を元気にする有識者会議」の提言や教育戦略ビジョンに示された県民の教育への思いをもとに、千葉県の子どもたちや家庭、学校、地域の10年後の具体的な姿を次のように考えました。

【元気な子どもたちの姿】

- 学校や地域における様々な体験を通じて、子どもたちが道徳性や豊かなコミュニケーション能力を身に付けている。
- 身近な地域の歴史や伝統文化に親しみ、それらを育んできた郷土と国を愛するとともに他国を尊重し、郷土と自国に誇りを持った子どもが育っている。
- すべての子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自ら考え、表現し、問題を解決する確かな学力を伸ばしている。
- 子どもたちが早寝早起き、食事、運動などバランスのとれた生活習慣を身に付け、健やかな体はぐくまれている。
- 子どもや若者が生まれてきてよかったと思える自己肯定感にあふれている。

【元気な家庭・学校・地域の姿】

- 子育てや家庭教育に悩んでいる保護者が気軽に相談できる環境が整い、家庭の教育力が高まっている。
- 子どもや若者が健やかに育つための地域コミュニティが形成され、地域には元気で明るいあいさつの声が響き、家庭・学校・地域が一体となって、子どもや若者の成長を支えている。

- 子ども一人一人の個性が輝き、希望や能力を引き出すことができる学習環境が整っている。
- 子どもたちがいじめや暴力などに悩むことなく学校に楽しく通い、子どもや保護者などからの学校への信頼が高まっている。
- 障害のある子どもたちへの理解や支援が広がり、障害のある子どもたちと、障害のない子どもたちとが、地域で共に学び、子どもたちの笑顔があふれている。
- ニートや引きこもり、不登校だった子どもや若者たちが、周りの温かい支援によって、生き生きと勉強や仕事に取り組んでいる。
- 子どもや若者を取り巻く有害な環境をなくすための取組が、地域全体で進められている。

【元気な県民の姿】

- 多くの県民が日常生活の一部として運動に親しみ、体力の向上が図られており、また、文化活動を通じ、心豊かに暮らす人が増えている。地域には活気があふれ、「元気な千葉県」として知られている。
- 高い目標を持ってスポーツや文化・芸術活動に取り組み、全国的に活躍している人が増えている。
- 地域の人たちによって埋もれていた伝統文化が復活し、その文化が多くの人たちとの交流を生み、更に新しい現代的な要素が取り入れられるなど、ちば文化の魅力が増している。
- 県民の県内交流が積極的に行われ、県民一人一人が、様々な千葉県の魅力を再発見することにより、千葉県に愛着や誇りを感じられるようになっている。

こうした10年後の姿を目指し、県民の力を結集して「教育立県ちば」の実現に向けて取り組みます。

2

基本的な取組方針とプロジェクト

(1) 基本的な取組方針

この計画は、先に述べた10年後の子どもたち、家庭・学校・地域、県民の姿を実現するため、県政発展の基盤となる本県教育の今後5年間における取組方針、施策の方向と重点的な取組を示すものです。子どもたちが、社会的自立や職業的自立に必要な力を身に付けていくためには、豊かな自然や様々な知識・技能に触れ、かかわり、そして人とつながっていくことが必要です。

とりわけ、子どもたちの教育に直接携わる学校は、子どもたちが多くの時間を過ごす場であり、知・徳・体の育成に大きな責任を有することは言うまでもありません。しかし、地域住民や企業等も受け身な立場にとどまることなく、「すべての大人が子どもたちの育成にかかわる」という自覚が何よりも重要です。家庭、学校、地域がかかわり、

つながることにより、さらに大きな教育力にしていかなければなりません。
そこで、この計画では、

「ふれる」、「かかわる」、そして「つながる」

を基本的な取組方針とします。

(2) ビジョンからプロジェクトへ

多くの県民参加により策定された教育戦略ビジョンは、「待ったなし」で取り組むことから中期的・長期的な展望に立って取り組むことまで、4つの目標と18の基本テーマ、88の推進課題により構成されています。

そこで、この計画を策定するにあたっては、教育戦略ビジョンを基盤として、「千葉県の教育を元気にする有識者会議」の提言を踏まえ、今の千葉県教育が緊急かつ重点的に取り組む施策を3つのプロジェクトに再構成しました。

○過去と未来をつなぎ世界にはばたく人材を育てる ～夢・チャレンジプロジェクト～

教育戦略ビジョンの基本目標「社会の中で個性が輝く『人間力』の醸成」に向けた推進課題のうち、今後の千葉県教育が目指す理念についての取組を中心に推進していきます。

○ちばのポテンシャル（潜在能力）を生かした教育立県の土台づくり～元気プロジェクト～

教育戦略ビジョンの4つの目標それぞれに位置付けられている推進課題のうち、教育立県の土台づくりとして、千葉県教育の理念を実現するための方策や条件整備についての取組を中心に推進していきます。

○教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力をつなげる

～チームスピリットプロジェクト～

教育戦略ビジョンの基本目標「家庭・学校・地域連携による教育力の向上」、「豊かな学びを支える教育環境の整備」、「子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育の推進」に位置付けられた推進課題のうち、家庭教育力や生涯学習、教育にかかわる様々な力をつなげ、強固な連携体制の構築に関する取組を中心に推進していきます。